

35歳

お試し浮気

ふたなり巨根で
アクメ離婚するまでの
記録





何不自由ない
生活でしたが

私の中にはふつつと
不満が湧いていました

なんて退屈な
日々なんだろう

優しくて不自由ない
生活をさせてくれる夫

手がかからなくて
かわいい息子

それだけでは
私は満足できず

日々悶々と
していました

性生活はすでになく
刺激を求める身体を持て余し

大量のアダルトグッズを
買い込む毎日

別の穴の開発も
飽きてしまいました

自分から慰める
日常からの解放



自由と家庭の狭間で
私は何もできずにいました

そんなとき私に
来た1通のDM

くお願いします♪

普段は見えないのにその時は
興味が湧いて開いてしまいました

は県外におでかけです

そこには私の写真に
精液をぶっかける

なにこれ…

夫の数倍は大きいであろう
男根が映っていました

馬並みの射精量と
汚された私

夫より大きな
隆起したイチモツ

白濁した
濃厚なザーメン

私はそのアカウントに
夢中になりました

彼女はフォロワー0人の
アカウント

日常から私を引き上げる蜘蛛の糸
のように感じたのでしよう

ぶっかけさん

8431241241

ぶっかけさん

ようのぶっかけです

ただ淡々とぶっかけをアップ
しているだけのアカウントでした

メディア欄の
ぶっかけやオナニー動画

雄々しい射精を
見るたびに

私の指は止まらず
秘部をただただ

ひたすら慰めていました

そしてある日私と夫は
些細なことで言い争いを
してしまいました

今までの生活で鬱憤が
たまっていたのでしよう

私はその鬱憤を
晴らすように

あのカウントにDMを
送ってしまったのです

1



!!

興奮してこんなになっちゃいました…

私はここで初めて相手が
ふたなりだと知りました

あの、いつもなんなんですか？
迷惑なのでその画像送ってこないでく
ださい
通報しますよ？

あ…返信くるだなんて驚きました…

初めは相手に注意だけ
するつもりでした

急に裸の写真送ってこないで
気持ち悪い

あ…ごめんなさい
調子乗っちゃいました…

もう送り返しません、本当にごめんな

彼女はもうDMしないと
言いましたが

私はそれだけでは
物足りませんでした

もう何も送らないので許してください

ちょっと待ってください
本当にそれだけで済むと思っているん
ですか？
誠意が足りないと思います



興奮してこんなになっちゃいました…

男より精力が強く性器が
大きいとされているふたなり

急に裸の写真送ってこないでください
気持ち悪い
私は興味を抑えられ
ませんでした

あ調

さい
いました…

直接会ってその場で
アカウント削除

そんな口実を私は
思いついたのです

相手は驚きつつも了承
そして

ちょっと待ってください
本当にそれだけで済むと思っ
てですか？
誠意が足りないと思います

ことでいいんで

私の気持ちを知
ってか知らずか

の近くにあるとこ
いですか？

え…それっ
すよね…

2人きりで会える場所を
選んできました

じろ

隣の
ラブホテルでした

私は…

拒みません
でした

その後私はいつもより
長時間自慰にふけりました

夫に内緒でオスと
密会する背徳感のためか

それともそんな考えを持つ
自分を忘れるためか

私は激しく双穴を耕した
のかもしれない



郊外のラブホテル

私たちくらいしか
利用者がいないホテルに



当日私は
夫と子供に内緒で

待ち合わせ場所に
向かいました



ドキ...

はじめまして...

気弱そうな
雰囲気と相反して

服の上から
分かるくらいの巨根に
私は目が離せませんでした



は
はじめまして...

彼女はいました

二、三言挨拶を交わして
私たちはソファに座りました

気まずい沈黙

私がどう切り出そうか
思案していたときでした

彼女が

おずおずと

遠慮しながら

私に近づき

あまりにも自然に

んっ…

私の唇を奪いました

私はもちろん
抵抗していたと思います

でもほんの
数秒だけでした

夫とは
違うキスに私は

何もできず
ただ惚けていました

そして
キスが終わったところ
には私はもう

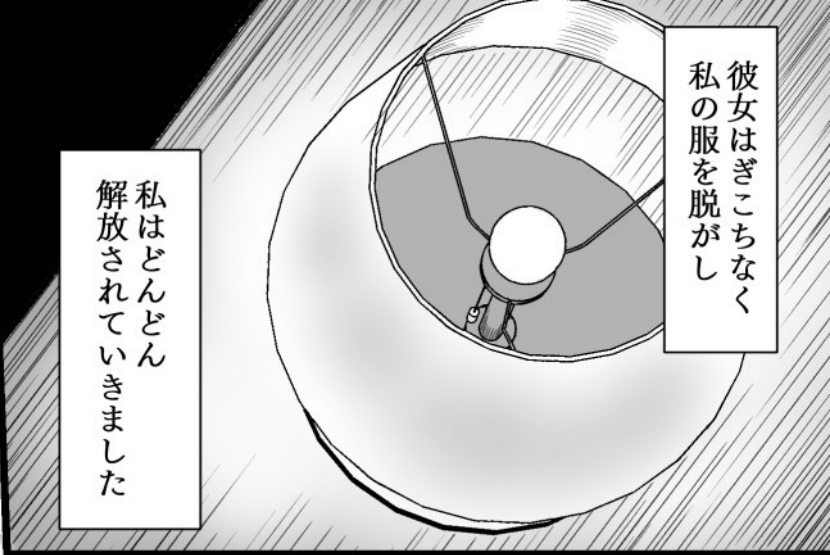
一人のただのメスに
なっていました



私の秘所が
露わになりました

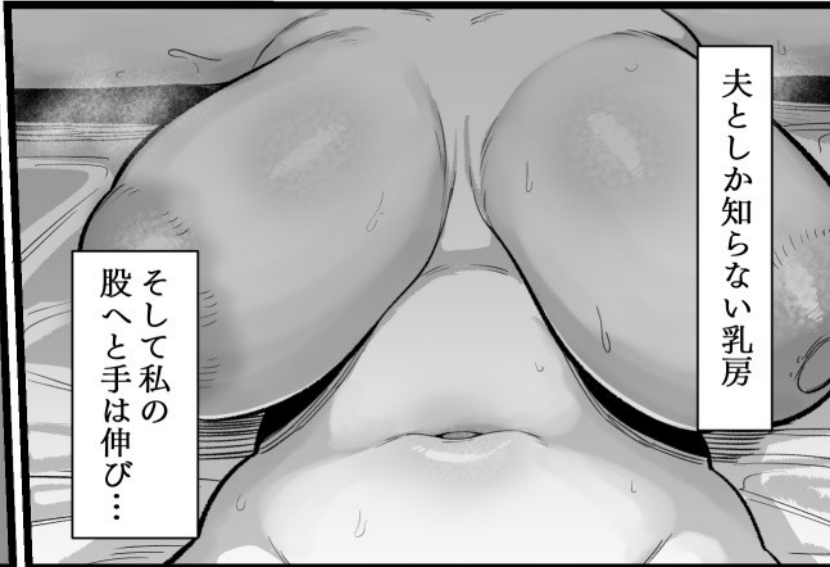
むせ
わあ

むせかえるメスの
臭いが部屋中に拡がり



彼女はぎこちなく
私の服を脱がし

私はどんどん
解放されていきました



夫としか知らない乳房

そして私の
股へと手は伸び...



彼女が私の股に
顔を近づけます

私の割れ目は期待で
濡れそぼっていました



お互いの鼓動と
男根の脈打つ音が

どくどくと
聞こえる気がしました

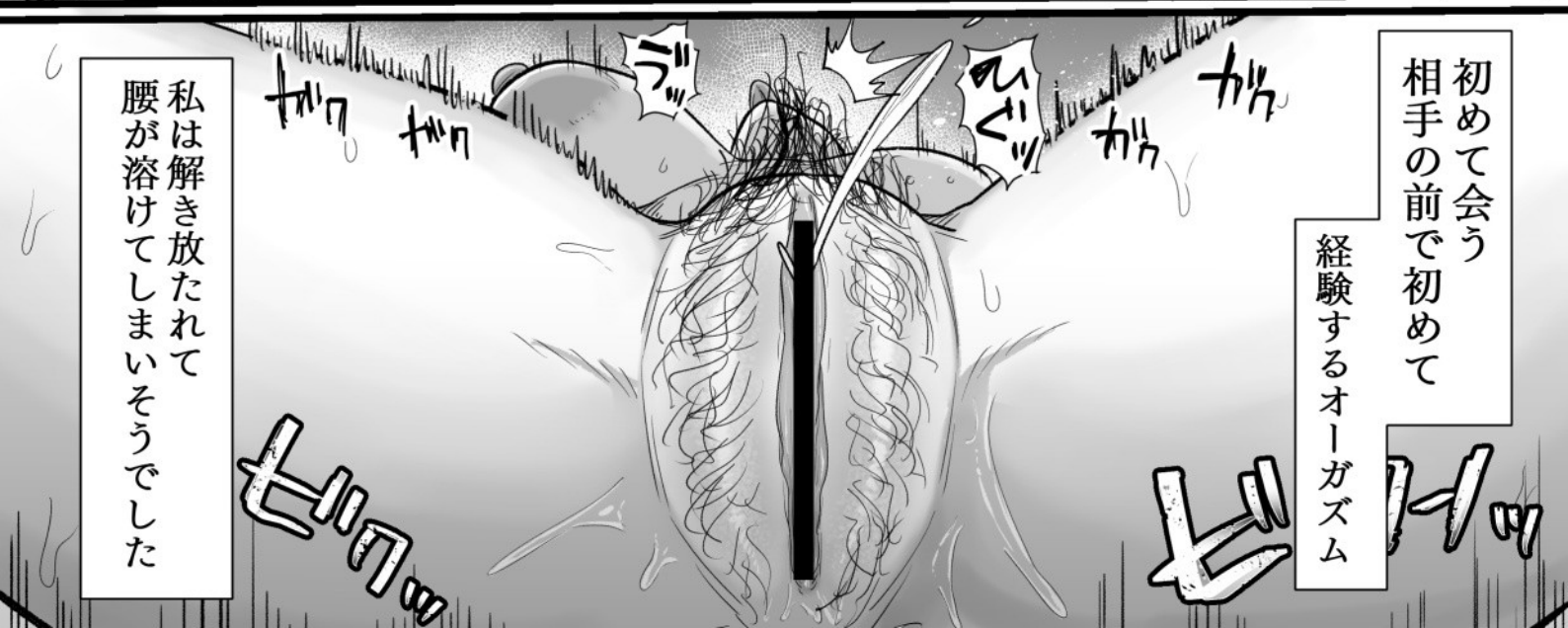


そして

彼女の
舌先が触れただけで



私は獣のように激しく
達しました



初めて会う
相手の前で初めて

経験するオーガズム

私は解き放たれて
腰が溶けてしまいましたが

私が
とろけていると

彼女が求めるように
男根を差し出してきました

むせ返るオスの臭い

油っぽい包皮…

走る血管と
黒光りする龟头

私は我慢できず
むしゃぶりつきました

夫以外のちんぽの味
少し苦しよっぱい味でした

彼女を
気持ちよくする

んふい

そんな考えのない
自分勝手なフェラ

自分のものだと
誇示するための

独善的なフェラで
私はまた達しました

快樂に震えていると
彼女が

私に被さりました

唾液で濡れた
おちんぽが光り

ぬらぬらと私を
めがけて勃起していました

私は抵抗します

ななかだけは
ダメです…

話し合いに来たはず
ですよな？

こんなの間違ってます
レイプですよ…

私には夫と
子供がいるん

心にもない言葉
でした

そして相手も
分かっていました

こんなのただの
建前にしかすぎないと

彼女は黙って
おちんぽをあてがい

私のささやかな抵抗は
終わりました

そして 夫以外の
でかちんをすんなりと

ほおおお
おおんっ♡

でっか…♡
一気に奥まできた…

奥まで飲み込みました

私は挿入されて余裕が
ありませんでしたが

でっか♡ニンなにッ♡
ちんぽがっ♡

彼女にはそんなこと
関係ありません

夫が
未到達の奥へ

何度も

何度も

何度も

何度も

凶悪な巨根を
叩きつけられて

おお??

??

またイブ♡

そのたびに私は
絶頂しました

おお??
おお??
おお??

絶頂する私の膣は
彼女のペニスを搾り上げ

ほおおおッ
奥のペニッ

やがて彼女のペニスが
膨らみ始めました

凄まじい怒張で
射精欲を誇示してきます

もっ♡
もっ♡と突いてえっ♡

それに応えるように
彼女は玉袋を押し付けます

あの大量のザーメンが
全部私の膣に…

夫以外の精液が子宮に…

特上の重み
生のザーメンを欲し

私は自分から彼女に
キスを何度もしました

私の脚は自然と
彼女に絡みつきました



言葉では
抵抗しているものの

射精しちゃうめえっ
夫がいるのっ

中はだめっ♡

もはや彼女の前では
無意味です



ひたすら射精すること
だけを考えた彼女は

射精♡

自分勝手なピストンと
貪るようなキスで
快楽を求めます

射精♡

激しいっ♡

射精♡

射精♡

ダメえっ♡



そして
一瞬の静寂の後

吐精

射精

絶頂

夫だけの子宮に
彼女が注ぎ込まれました

あっ…

射精るっ♡

うおおおおっ

ダメっ♡
イブっ♡

うおおおおっ♡

夫をザーメンで
塗りつぶしたちんぽは

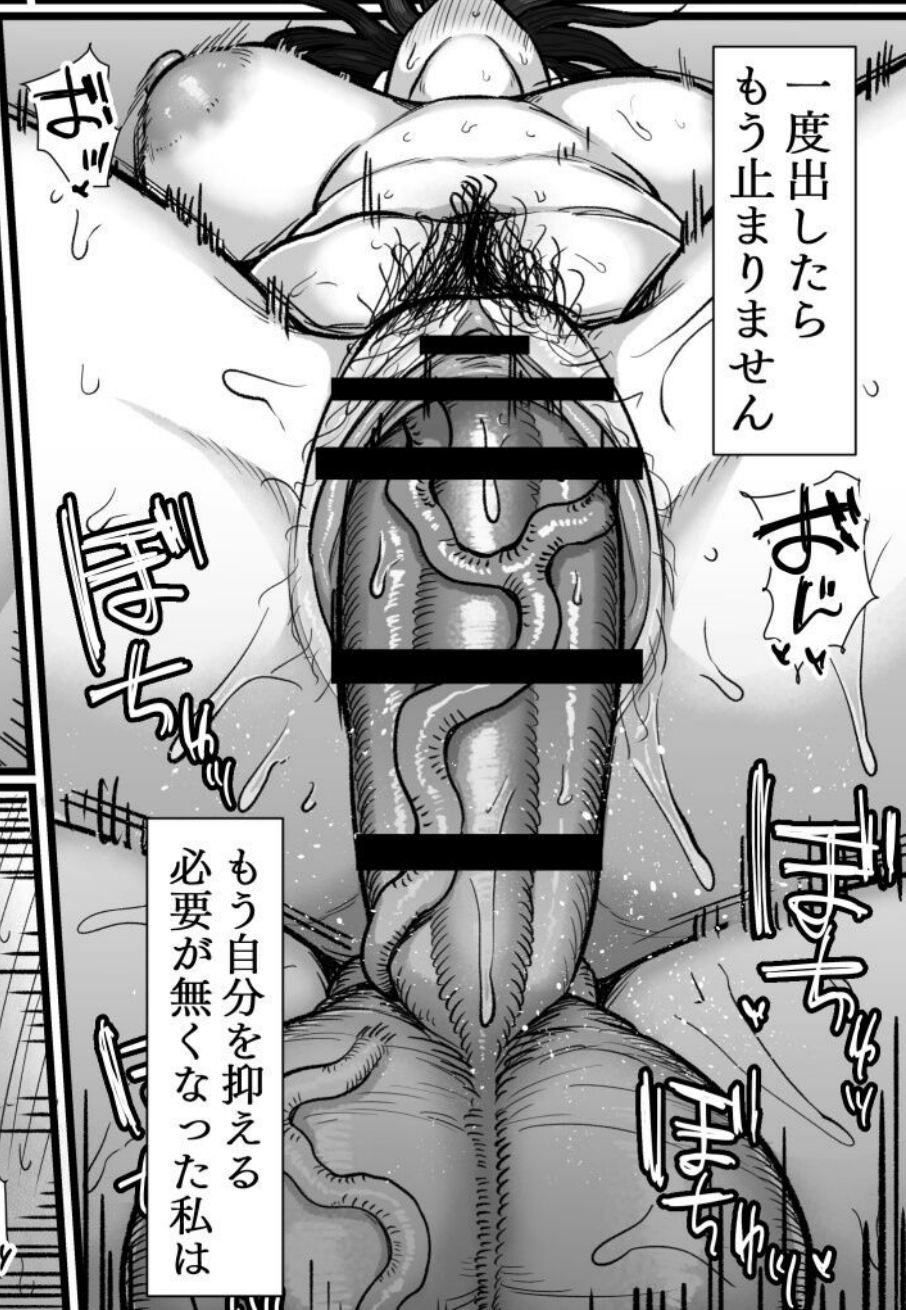


私の中で
どくどくと呼吸をして



私の女を
蹂躪しました

一度出したら
もう止まりません



もう自分を抑える
必要が無くなった私は



彼女を
ひたすら求めました





最後に射精された頃には

おーおー

んんん



顔が隠れるくらい
ザーメンを浴び

身体中に精液の
臭いを染み込ませ

すまふ

は

どろろ



もうとつくに
夜が明けていました

セー

すまふ

は

私は腰が砕け
快楽で起き上がれず

昼まで家に
帰れませんでした

どろろ

帰ったあとは夫への
言い訳に苦労しました

ドキ

ドキ
ドキ
ドキ

疑っていましたか何とか
言いくるめれたと思います

その日私は
夫を誘いました

ドキ
ドキ

自分の罪悪感を
消したかったからです

でも夫は私を受け入れて
くれませんでした

「今日は疲れた」
「明日早いから」

ありきたりな
言い訳です

私はこっそり
ベッドを抜け出して

なぞなぞ

くそ

昨日のことを思い出して
自慰にふけりました

もうあの巨根を
忘れられない

物足りないデイルドに
尻を打ち付けながら

私は彼女を
思い出していました

その日から私と夫の
会話は減っていききました

そして私は一層あのちんぽに
ハマっていききました

会えない日は私の痴態を
彼女は求めてきました

体毛の処理も
禁止されました

旦那にバレないように
下品な恰好を晒したり

夫にも息子にも
絶対に

こんなに下品に
なった自分…

今日も写真撮りました♥
これで抜けますか？

いです♥
ので待っててください♥

絶対に
見せられません…

そして会う頻度は
どんどん増えていき

ちんぽっ♡もっ♡

ちんぽっ♡もっ♡
もっ♡ハメてえ♡

私はどんどん彼女好きに
なっていました

どんな下品なことも
スケベなことも

彼女とちんぽのため
ならなんでもできました

ちんぽっ♡
ちんぽください♡
ちんぽおっ♡

私はもうバイブだけじゃ満足できないっ♡

はやくおまんこしてください♡

浮気人妻の欲求不満まんこです♡



じゃあ家族写真に放尿してください♡

もう以前の私ではありませんでした



あの頃の良い
母親だった私は



今ではただのスケベな
メスになりました

そんなある日一つの
小包が届きました

ありがとう
ございました

それは大量のザーメンが
入ったシリンジと

肉便器へ

ザーメンまみれの
下着とマスクでした♡

むわっ♡



アナルとまんこに
ザーメン注射…

どっぷりと重たい
ザーメンマスク

オス汁きく…♡



家にいるのに
母ではない

ザーメンまみれの
メスの完成です

これでいつまで
耐えられるのでしょうか

栓をしてパンツを履けば



あれ？
風邪でもひいたの？

そ
そうかしら？

なんか栗の花
みたいな臭いが…

ええ…

ちよつと調子が悪くて…



ただいま



…？

なんか臭いな…？



朝からザーメンで
脳みそをレイプされ

私はもう限界でした



夫に内緒でおっぱいと
おまんこがザーメンまみれ

ケツとまんこは
ザーメンでパンパン



あたたちよつと
出かけてくるわね

おおい
こんな時間に...

すぐ戻るから!!



もう無理です
発情してたまりません♥

私は家族を置いて
ちんぽをハメに急ぎました

はやくハメたい♥
ザーメン子宮に欲しい♥

もう母ではなく
メスの私は

何も思考が
できませんでした



あれ?奥さん

もう我慢できません
でしたか?

はい...♥
もう無理です♥

ザーメン生中出し...
ザーメンください...♥

しょうがないですねえ...

ほら?
いつものお願いは?

今日も家族を置いて
まんこハメに来た

35歳の
変態おばさんです♥

淫乱おまんこに
特濃ザーメン
ぶちこんでください♥

おまんこ
してください♥

めうがとろ
りや、んまおっ

土下座ちゃん媚びも
板についてきましたね

ちんぽしか考えられない
奥さん大好きですよ

女としての尊厳は
もうありませんでした

ちんぽを食る豚

私は人間以下の
メスになっていました

今日も写真
持ってきたんですね

えらい えらい

家族写真も
プレイの道具です

ではイキますう♡

家族を汚してでも
私は男根を求めました

ザーメン
浣腸もわろっ♡

上出来ですね

変態人妻らしい
姿です

ザーメン♡

ザーメン♡

私もあなたの無様な姿で
準備ができました

ほら

しゃぶれ

アッるんっ

はひっ

しゃぶらせて
いただきますっ♡

羨のなつてない
メス犬の様な姿

もしかしたらこれが
私の本来の姿
なのかもしれません

解放された私
自由な私



下品でザーメンを
欲しがる私

そんな私を
見つけてくれた彼女は



ヤバっ♡
でる



今や家族より大切な
存在になっていました





ザーメンくっさる
特濃ザー汁やへ♡

脳みそ直撃
射精キタ♡



ずっと
ほしかったです♡

あらがどう
うざいまま♡

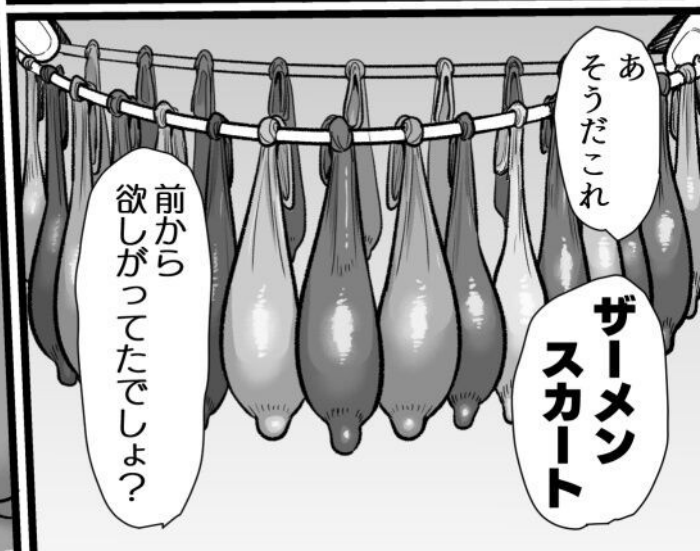
みてくだい♡

私一生懸命
踊りますから♡



馬鹿みたいに
アクメして…

可愛く
なりましたね…♡



あ
そうだこれ

ザーメン
スカート

前から
欲しがってたでしょ？







まんこがぽっ♡

ちんぽっ♡
ちんぽおお♡

ちんぽキクッ♡
いつもよう

かべっ♡

あたま
トンじゃううう♡

阿職全
部押し込

ちんぽ

の極太おち

田部のはな

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち

おちんち



もう私は家族のことを
忘れていました

今や夫は 彼女と私の間に
割って入る邪魔者でした



夫からは何度も
着信が来ていましたが

ちんぽで頭いっぱいな私は
気づくはありません



彼女との行為の数は
夫との情事の何倍にもなり

後ろの穴の処女も彼女に
捧げていました

汚い声も汚い音も
なにもかも

夫には
聴かせてやりません

中ニセーッ

いくらだって
やります

夫とはしない
体位も彼女となら

夫とは離婚する

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

決心はついて
いませんでした

今日 たった今
心が決まりました

私は彼女と添い遂げる

おっ
おっ

彼女のちんぽがないと
生きていけない

おっ
おっ

もうそれしか
考えられませんでした





イッてから20分近く気を
失い私は目覚めました

頭は朦朧とし
身体はだらしなく
精液を垂れ流しています

はっ

身体は洗わず
そして…

ザーメンマスクを
また着けて…

彼女に
お掃除フェラをして

ザーメンを搾り切ってから
私は家へ戻りました

帰ったら夫が
待っていました

私がホテルへ入っていく
写真を用意して…

どうやら探偵を
雇っていたみたいです

裏でやることは
やっていたんですね

まあ関係ありません

だって私が言うことは
1つなんだから

ねえ
あなた

私たちが離婚しない？



サークル：えびのインプラント

Twitter

